

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

# 健康新聞

発行所  
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

<https://shinkenkenko.jp>

次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十五年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

## 信仰即正義

まず宗教とは何ぞやといえ、言うまでもなく宗教理論や宗教哲学を難しく説く事ではなく、帰するところ正しい人間を造る事であって、それ以外の何物でもない。しかし口で言えばそれだけの事ではなはだ簡単であるが、實際上その簡単な事がとても難しいのである。論語に「言うは易く行は難し」という言葉があるが、全くその通りである。としたら、何でそのように難しいかを書いてみよう。

いかなる人間でも、偉くなるにも金を儲けるにも出世をするにも、大抵の人は善い事ばかりでは駄目だ、どうしても幾分かの悪い事が交るのも止むを得ないというように思い込んでいるのが実情である。しかも楽しみや遊び事に対してさえも、善い事よりも悪い事の

方が面白いとされている。右のような考え方が何百何千年も続いて来たので、遂に人間世の常識とさえなってしまったのである。昔からこれに対し、法律や道德教育等によって改善しようと骨折っては来たが、その効果はなはだ微々たるものである。とすれば、どうしても宗教よりほかに方法のない事は今更いうまでもない。しかし、単に宗教といってもその力の強弱が大いに関係する。それは力の足りない宗教では、どうしても悪に勝つ事が出来ない。宗教信者でありながら非行に打ち勝ち得ないものも、そのためである。いかなる宗教でも、本当に正義を貫く信者は寥々たる有様である。

以上によってみる時、その結論としては、悪に打勝つ力ある宗教が現れなくてはならない。それによってのみ、より善い社会も幸福な平和世界も生まれるのである。我等が唱える信仰即正義とは、これを言うのである。

## 浄霊体験記

2ページ  
3ページ

- 救われる度に驚きと感謝…
- 浄霊を知り五十二年感謝で過ごす日々…

ネパール

コメカミ、延髄の痛み

痛み消えて頭がスツキリ…

バネバ支部 デイバク・シールパカル(39)



私が新健康協会を知ったのは、二十一年前の十八歳の時です。この時、私は目の裏が痛み、コメカミや延髄も痛むようになりました。痛みで頭がモヤモヤしている感じで、心配でたまらず夜も眠れない日が続いて悩んでいました。

私の様子を見ていた両親は、以前に浄霊を受けて体が良くなった体験があったので、私にも「浄霊を受けてみては…」と話してくれました。

私は早速、バネバ支部へ行き、浄霊を受けることになりました。最初の頃は大きな変化がなかったのですが、毎日浄霊を受けていると、徐々に痛みが落ち着いていきました。すると、一カ月後には痛みが楽になり、頭がスツキリしました。本当に不思議でした。

それからというもの、浄霊を受けることが当たり前となりました。そして二〇一九年八月十七日、私は三十三歳で入会し、その後も浄霊を続けています。

浄霊を受けると、体の状態が良くなるだけでなく、気持ちも楽になって安心出来ます。この素晴らしい浄霊を、多くの方に知ってもらいたいです。

明主様、誠に有難うございました。

(ネパール・バネバ)

# 日の出

(韓国岳<sup>からくだけ</sup>から見た高千穂と日の出)



浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

## ノミ・腕の痛み

## 救われる度に 驚きと感謝：

長崎支部  
田上義高<sup>たがみよし高</sup>(77)



私は大工という仕事の関係上、首肩や腕等、体をよく使っています。現在七十七歳ですが、人に喜んで欲しい気持ちから、少しずつではありますが現役で仕事を続けています。普段から体を酷使しています。それでも体を動かさず、感謝の気持ちで仕事をしております。

令和五年九月のことです。翌日の仕事の準備をしておこうと、倉庫で材料をトラックに積み込んでいました。その時、何か体の中でチカッとしたのですが、特別変化はなかったため、準備

を終え自宅へ戻りました。しかし、その晩、身体に痒みが出始めました。次の日の夜には全身の痒みで、夜中起きて見ると、小さな虫が沢山繁殖していました。虫を殺しますと血を吸っており、一晩中、虫駆除をしている状態でした。

翌日、長崎支部へ浄霊を受けに行きました。すると、首から足首まで赤い斑点がびっしりと付いている…とのことでした。その後も続けて浄霊を受けますと、四日目の夜はよく休むことが出来ました。五日目になると、赤い斑点はかなり薄くなつて枯れ始め、それから痒みが出ることはありませんでした。

私は、きつと倉庫から虫を持ち帰ったのだと思いましたので、薬局で駆除するスプレーを購入しようと思い、薬剤師の方に相談しました。すると、それはノミが原因だろう…ということだったので、足を見せると、やっぱりノミから刺されています…とのことでした。症状は通常、早くて一週間、長いと一カ月以上は痒みがあるとのことでした。そんな中、私は五日間で楽に治り、とても驚くと共に明主様に心より感謝いたしました。

◆ 昨年の八月二十日にも、私はすごい体験をしました。

その日、朝から仕事に行っており、いつも通りに仕事をしておりましたが、午前十時ぐらいから右腕が上がらなくなり、昼過ぎには痛みが強く、全く上がらなくなっていました。また、右肩には十円玉大のコブが出来ており、そのコブにも痛みがありました。その後も腕が上がらないので仕事を早く切り上げ、長崎支部に浄霊を受けに行きました。右腕が使えないので、車の運転も難しかったのです

が、何とか支部に行くことが出来ました。私は、支部で「明主様に御守護をお願いしてほしい」と伝え、それから浄霊を二回受けました。すると驚いたことに、一回目が終わると痛みがだいぶ和らぎ、楽になってきていると感じました。続けて二回目を受けますと、今度は腕が上がるようになっていました。一時間半程前までは全く上がらなかったため、こんな奇跡とも言える展開に驚いてしまいました。

おかげ様で、翌日は仕事に行くことが出来、腕のことを気にせずに作業が出来ました。午後から支部に伺い、感謝御礼を申し上げました。右肩に出来ていたコブも小さくなっており、腕も普段通りに動かせることに、大きな喜びと大変な有り難さを感じました。

私は新健康協会に御縁をいただき五十年以上が経っております。今までにもたくさんのおかげをいただいております、明主様に心より感謝しております。(長崎県長崎市)

## 浄 霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。



湿疹・胃潰瘍・コロナ

## 浄霊を知り五十二年 感謝で過ごす日々：

豊中出張所  
尾崎勝吉（85）



私と妻が新健康協会を知ったのは、今から五十二年前のことになります。当時、私たち夫婦は仕事の関係で、福岡県の北九州市小倉南区の公団住宅に住んでおりました。

昭和四十八年七月、妻がひどい風邪を引きました。私は「すぐに病院に行こう」と言ったのですが、妻はあまり病院に行きたくないという気持ちがあったそうで、どうしようか…と悩んでいました。そんな時、ポストに健康新聞が入っており、健康になった方の体験談を読むと、妻も「新健康協会に行ってみよう」とのことでした。健康新聞は以前にもポストに入っていたことがあったのですが、その時は全く気にしていませんでした。

二、三日で体が起こせるようになったので、妻は一人で小倉支部へ行きました。そして、支部で実際に浄霊を体験

して、浄霊についての話も聞いたそうです。すると、いつもより体の調子が良くなったようで、妻はその後浄霊を続けたいと思ったそうです。また、私たちが住んでいた公団住宅にも会員さんがおられ、浄霊を続けるきっかけとなりました。おかげ様で、風邪の状態も徐々に楽になり、数日間ですべてに良くなりました。

妻は、これからは浄霊を続けたいとのこと、浄霊を知って約一カ月後の昭和四十八年八月十日、三十二歳で入会しました。

妻が小倉支部で入会した一年後、仕事の関係で神奈川県藤沢に引っ越しをしました。会社は東京でしたので、会社まで電車で一時間かけて通勤していました。また、新健康協会の支部が東京にもありましたので、妻は一時間かけて東京支部へ行っておりました。

神奈川県に引っ越しをして六年後の昭和五十四年、妻が「自宅でも互いに浄霊を受けられたら良いと思う」と話したのをきっかけに、私も昭和五十四年四月十五日、三十八歳で入会しました。

### 湿疹もきれいになる

これは入会後すぐに起きた出来事です。整髪料がきつかけで手に湿疹が出来始めました。最初はそんなに気にしていなかったのですが、段々と足にも湿疹が出るようになりました。すると、湿疹の膿が酷くなり、手は手袋をしないといけない状態で、靴は膿で濡れてしまう程の状態になりました。

その上、痒みが酷くなったので病院に行つて薬を塗ってもらおうと思っていました。しかし、仕事が休みになる土

日は病院が閉まっていたので、とりあえず薬局に行きましたが、薬局の人から「そんな酷い湿疹に効く薬はありません」と言われました。薬がないなら、浄霊を受けるしかないな…と思い、仕事が休みの日は東京支部へ浄霊を受けに行きました。また家にいる時は妻から浄霊を受けました。すると薄紙を剥ぐように少しずつ良くなり、湿疹が出ていたのも分らないくらい綺麗になりました。あんなに酷かったのですが、仕事も休むこともなく続けられました。これも浄霊のおかげだと思っています。湿疹で毒素を出して頂いたので、以前よりも元気になりました。

### 緊急手術後も無事快復

これは昭和六十三年、私が四十八歳の時の体験です。その年の年末、仕事の納めの日、満員電車の中に居た私は、急に気分が悪くなりました。すると突然、吐血と下血が同時に起きて倒れてしまい、品川駅から救急病院に搬送されました。

次の日、血圧が下がって危険な状態になりましたが、運ばれた病院では手術が出来たお医者さんがいなかったのだ、東京女子医大病院に送られました。そこで「胃潰瘍」と診断され、胃を三分の一だけ残す緊急手術となりました。妻には「救命第一の緊急手術には後遺症の心配があります」との説明があったそうです。手術が済んで、二週間後には退院の運びとなりました。この時、病院も患者さんでいっぱいだったこともあり、半ば追い出されるような形で自宅に帰ることが出来ました。自宅に帰ってから東京支部

に通って浄霊を受けました。最初の頃は胃に違和感がありましたが、浄霊を受けるとスッキリとして、日に日に元気になりました。食事美味しく頂けましたので、体重も増えたほどです。こうして二カ月後には仕事にも復帰出来、心配されていた後遺症もありませんでした。

あれから三十年以上経っています。が、今も元気に過ごすことが出来ています。これも全て浄霊のおかげだと思います。その有難さを実感しています。

平成四年、私が五十二歳の時に、仕事の関係で兵庫県の神戸に引っ越しをしました。その三年後には阪神淡路大震災を経験し、自宅も倒壊しました。この間、神戸出張所で十一年間お世話になりましたが、平成十六年からは大阪の豊中出張所に浄霊を受けに行くようになりました。

### コロナウイルスも一日で楽に

最後に、最近の出来事をお伝えいたします。

昨年の八月十七日、私は夜中一時頃お手洗いにいきたくなり、二階から一階へ降りて来たのですが、足がヨタヨタして、手すりを持つのがやっとで、便座に座るのも必死でした。何とかお手洗いを済ませましたが、二階へは戻れなかったのです。一階の部屋で横になりました。妻は私の様子を見て、朝方まで浄霊をしてくれました。その後、豊中出張所に御守護お願いの電話をしましたが、高齢ということもあり、お医者さんに往診をお願いしました。診察結果は「コロナウイルスの陽性反応が出ている」ということでした。

特別薬は服用せず浄霊を受けます

と、翌日の昼過ぎには自分で体を起こせるようになり、食欲も出ました。人生山あり谷ありで、いろんな出来事が多々ありましたが、浄霊を受けていると、いつも大事に至らずに済んでおります。浄霊に出会ってから、日々感謝の気持ちで暮らすことが出来ております。

（兵庫県神戸市）

## 浄化作用

人間には体内の毒素（＝不純物）を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。



## 自然農法

## 自然農法体験談



松山支部  
中田伸二(63)

私は、愛媛県松山市と久万高原町で、野菜を中心に自然農法を実行しています。以前は市の団体職員として勤務していましたが、平成10年、私が36歳の時に亡くなった義母から家庭菜園を引き継いだことがきっかけで、農業に興味を持つようになりました。しかし、それまで私は自分で野菜を育てた経験はありませんでした。

以前から私は、明主様が発見されて推し進められた自然農法や、ここ愛媛の地で自然農法を実践されていた方にも深く共感していましたので、農業・肥料を使わずに家庭菜園をすることに決めて畑作を始めました。直接土に触れることにより、農業の楽しさや難しさといったものに触れていきました。

その数年後、農業を仕事としてやってみたい…という思いが強くなり、平成13年、39歳からは久万高原町の親戚の休耕田を借りて農業を始めました。

最初の一年間は、つるはしで開墾していく作業で、畑らしい状態にまで再生するのが大仕事でした。現在は、自然農法を始めて20年になり、松山市35アール(約1050坪)、久万高原町95アール(約2850坪)の合計130アール(約3900坪)の面積で、野菜を中心に作っ

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。

ています。中でも土作りは試行錯誤の連続で、当初はあちこちから枯れ葉や枯れ草を集めて堆肥を作っては畑に入れていました。そんな時、植物性堆肥さえも使用しない農法に取り組んでいる方の講演会を聴きました。その中で、「畑の外から堆肥を持ち込まず、畑の中で循環するように土作りをしている」という話を聴き、「これだ!」と思った私は、それからはその方法に切り替えました。今ではナス、小豆、大根、レタス等、様々な野菜は順調に育ち、収量も上がっています。

今、農業を始め世界は激動の世の中です。日本の農業従事者の平均年齢は69歳となっており、あと10年もしないうちに作り手が激減し食糧生産が危機的な状況となります。日本の主食である米が不足して高騰し、ゲノム編集や遺伝子組み換え食品が蔓延すると、「食べるものがあっても食べられない時代」がやってきてしまいます。

今こそ、明主様が提唱されている究極の自然農法が普及していく必要があると考えています。



中田さんの畑

## 美の世界



## 伊東深水《早春》

膨らむつぼみが春の訪れを知らせる梅の木。木の根元には日本髪に和服姿の女性がかがみ込み、落の葉でしようか、新芽に手を触れています。どこことなく雪の残る雰囲気を感じるのは、若菜を摘んでいるような姿に万葉集の句「明日よりは春菜摘まむと標めし野に昨日も今日も雪は降りつつ」を、観る側が勝手に重ねてしまうからかもしれません。女性が黒地に大きめの柄の入ったコートとシヨールを羽織り、真冬の外出の装いでいることも、まだまだ冷え込む空気を伝えているようです。

この《早春》を描いた伊東深水(一八九八～一九七二)は、東京生まれの日本画家です。十三歳で鎗木清方に師事し、その影響から美人画を描き始め、日常のふとしたしぐさを切り取った情緒豊かな作風で大変人気を博しました。画業の幅は広きに渡り、浮世絵版画の復興をめざす新版画運動に参加するなど木版画にのこした足跡も大きいものです。深水ははじめ、労働者、乞食、新聞配達などを描いていますが、美人画においても写生を重んじ、素描を重ねて制作する姿勢が同え、風俗画である浮世絵の本質を実践していたといえます。

そもそも清方を師とし、美人画を手がけたということは歌川派の浮世絵の系統をひくということに他なりません。そのなかでも深水は、浮世絵とは浮世／現世を表すものという強い信念から、普遍的な、

あるいは理想上の美人というよりも、自分の生きた時代の女性像を描きました。しかし「絵にする」ということは、現実をそのまま切り取るだけで成り立つものではありません。たとえば今では誰でも簡単に写真を撮ることができますが、誰もが観る人の心に残る風景を収めることができるわけではありません。深水は同時代の生活者を透徹した目で捉えつつ、そこに立ち上る感情を最も効果的な方法で表してきました。女性が身につけるもの一つ、化粧一つとっても洒落た雰囲気を醸し出すことができ、女性の何気ない動きや振る舞いの選び方が粋なもの、深水が趣味人で時代の美意識や流行に敏感であったことが働いているでしょう。まさに現実の中に理想を見出し、理想の中に現実を反映するという技術を浮世絵の系譜から学んだ人だと言えるのではないかと思います。

解説 松田愛子

清明会館 「ゆめのうき世に」後期展

期間…令和8年1月6日(火)～5月17日(日)

※清明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535